

平成21年度「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」結果から分かった本校の現状と、授業改善の方向等について

平成21年 9月 7日
墨田区立鐘淵中学校
校長 杉山 佳男

I、はじめに

先に行われた、東京都及び墨田区の学習状況調査の結果を受け、本校では、夏季休業中に各教科で改善策を立ててきました。その改善策に基づいて、9月を「授業改善月間」として、全員が研究授業・公開授業を行って参りました。今回の「全国学力調査」結果におきましては、先の調査と同じような結果が現れ、本校の課題がさらに明確になってきたところです。諸調査結果から分析して、以下の二つの事項が大きな課題となります。調査外の教科におきましても、以下の視点を踏まえながら授業を行うと共に、今回の調査で明らかになった国語・数学のポイントを分析し授業改善に努めて参ります。

II、本校における授業改善視点

1. 考える力の育成
2. 学習内容の定着化

III、本学習状況調査から見た本校の現状

1. 国語・・・「話すこと・聞くこと」「読むこと」について正答率がやや低く、「言語事項」については平均をかなり下回っている。「書くこと」においては、知識問題も活用問題も平均より高い数値を示している。

2. 数学・・・「数と式」「図形」については正答率が東京都平均よりやや低く、とくに、「数量関係」については数値をかなり下回っている。活用問題の数値は総合で全国・都平均レベルである。知識問題よりも活用問題の正答率が高いのは、雰囲気理解し、生活に当てはめているが、基礎・基本が定着されていないため、正確な式と計算に結びつかず、結果が出ないものとする。

IV、授業改善の方法

1. 国語・・・得意な部分から国語力を高めるため、「書くこと」「読むこと」の指導を今後も継続する。語彙力を付けさせると共に、漢字、文法等の基礎・基本の定着を図る。そのため、長期休業中や放課後の補習、漢字コンテストを利用して「言語事項」の補強を行う。「話すこと」「聞くこと」の力を付けるため、授業での取り組み回数を増やす。

2. 数学・・・過去の知識を振り返らせ、今から学ぶ知識につなげさせ、確認を行いながら、内容の定着を図る。小テスト、問題演習の量を増やし（宿題も含む）理解度を確保することで、つまづきの部分を探り改善に努める。授業時間内に、個々の生徒が考える時間を多く設け、論理的に思考する力と共に、生活に生かせる力を付ける。